



Mr.kj · rabbit · elephant · hippo
and
living dead's David.
さく・くまひるき

ここはけいじえいくんのおうち。
おかあさんが呼んでいるこえがきこえます。

「けいじえい、おとうさんがおべんとうをわすれていっちゃった。
とどけてあげて！」



けいじえいくんは、めんどろだったのだけれども、
おとうさんがおなかをすかしちゃかわいそうだったので、
とどけに行くことにしました。

「こんなピンク色のアンニュイなふんいきのおべんとうをもって
あるくなんて、いやんなっちゃうなあ！」



けいじえいくんは、ぶつぶつもんくをいいながらおべんとうを
とどけにでかけていきました。

もり
森にはいるとうさぎちゃんにであいました。

「あ〜けいじえい! 空からふってきた隕石が、ぼくのうちの入り口をふさいで
ともだちがとじこめられたんだ! どうしよう。」



うさぎちゃんのこまった顔かおをみていると、とてもほっておけない気持ちになりました。
「うさぎちゃんっ! ほっとけないよ!」

いん せき
隕石はとてもおもかったけど、力をあわせるとすこしづつうごきました。
ふたりは隕石をおします。

けいじえいくんがまえです。
「もう入り口をふさいじゃわないように、もっととおくまでおしていこう。」

うしろからうさぎちゃんがおします。
「けいじえいありがとう。きつとひとりじゃうごかせなかったよ。」



ふたりは力をあわせてうさぎちゃんのともしちの白うさぎちゃんを
たすけることができ、みんなうれしいきもちになりました。

「けいじえい!ありがとう。

おれいにぼくのくつをあげるよ、それをはいてジャンプすれば
とてもたかく飛べるよ。」



「ジーザスクライスト!またピンクだ、まいったなあ、うふふ。」
けいじえいくん、ほんとはとってもうれしかったのです。

ぽっひゅん!



あっというまにじめんがあんなに
とおくに、ふたりのうさぎちゃんも
とてもちいさくみえました。

くつは一度つかうと
こわれてしまったけど、
すごく近道ちかみちできました。

たかい^{たか}丘にはぞうくんがいて、悲しい^{かな}目で
あいさつをしてきました。

「ハオ。けいじえい。あしのうらがかゆくてたまんないんだ、
たすけてほしいよ。」



けいじえいくんも
あいさつをします。

「ジャンボ。ぞうくん。ぼくにできるかな…。」

けいじえいくんは、いま全力でやらないで、いつやるのだろうと
おもったので、全身でせいっぱいこすった。

ぞうくんのあしはじょうぶで、かたくって両手がいたくなっただけ
ぞうくんのうれしそうな顔をみると
あんまりきにならなくなった。



「おとうさんの背中とどっちがおおきいかなーゴシゴシ。」

「けいじえいありがとう!すっきりしたお礼に、
ぼくの鼻をわたって近道してくれよ。」
ぞうくんはながい鼻をのぼして橋をつくってくれました。

「ユーシリアス?これをわたれだって!？」



けいじえいくんはどきどきしながらも、たのしんでわたりました。

ぬまち
沼地をとおると、かぼさんがいました。

「やあけいじえい。歯がすごくいたいんだ、
どうなってるかみてほしいんだけど。」



オーケー
「OK かぼさん。じゃあ、おくちをあけてみて。」
けいじえいくんは、かぼさんのくちをのぞきこみました。

「ホーリーシット!なんてもものたべて
るんだいかばさん!」

は は あいだ さんりん
かばさんの歯と歯の間に三輪じてんしゃ
がはさまってました。
「沼にそだいごみとして捨てられていたのを、
まちがえてたべちゃったんだ。でもおかげで
痛みがなくなったよ、ありがとう。」

「これを捨てた人はおもいでもいっしょにすてちゃったことにきづいてるのかなあ。」

「お礼れいにぼくのせなかにのって沼ぬまをわたろうね。」
かばさんはおよぎがとくいなんです。



きづくともう夕暮ゆうぐれです。おさかなちゃんたちも
夕日ゆうひをあびて今日きょうにさよならをしています。

ぼら
墓地についたときにはくらくらしていて、リビングデッドのデイビッドが月を
ながめていました。

「ハイイけいじえい。ぼくの大切な
たからもの
宝物をぜひみてってよ。」



「アプソルーリーデイビッド。宝物って
たからもの
いったいなんだい？」

それはスケートボードのタイヤのウィールでした。
「さいごのお別れわかのときにママがぼくのかんおけにいれてくれたんだ。
ママは貧まずしかったからぎっとスケボーまるごと一個いっぴはかえなかったんだよ。」
デイビッドはとってもうれしそうにウィールをながめています。



リビングデッドのデイビッドはずっとこどものままだけどぼくはいつかおとなになってしまう、
こういうものを愛いとおしくおもう気持きもちちはだんだんなくなっちゃうのかもしれないとおもうと、
けいじえいくんは、よけいにうらやましくなったんだ。

「じま^{うち}んをきいてくれてありがとうけいじえい。
ぼくの家^{うち}をぬけて近道しなよ。」

「教会^{きょうかい}の裏^{うら}にぬけたよ、
バイバイデイビッド。」



とつぜんつよい^{かぜ}風がふいてけいじえいくんの
ぼうしをとばしてしまいました。



けいじえいくんはひとりきりでだんだん
^{かな}悲しくなってきました。

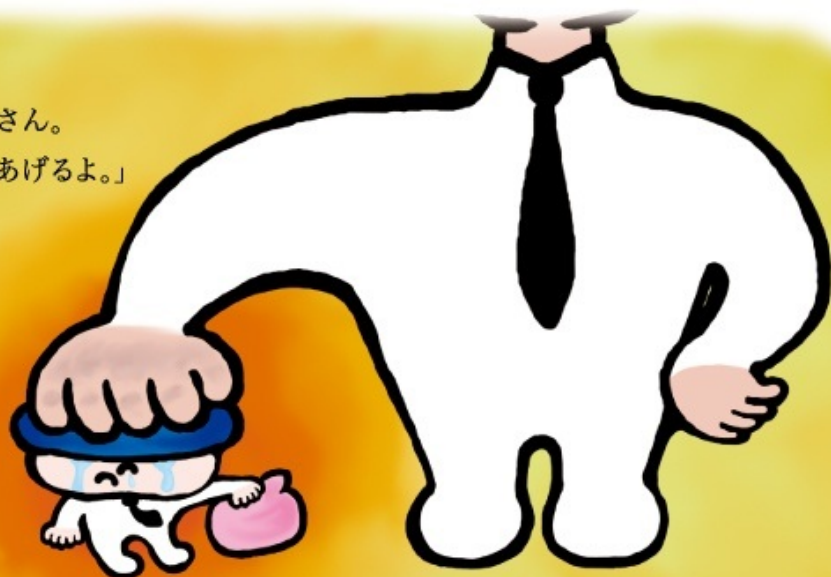
そのときおおきな^{こえ}声がありました。

「けいじえい！たいせつなものはしっかりつかまえていろ！」
空中^{くうちゆう}でけいじえいくんのぼうしをつかむ^か影がみえます。




「あー！あれはもしかするとー！」

「ありがとうおとうさん。
お礼におべんとうあげるよ。」



おとうさんのおおきな手は、おしごとでよごれていたけど、とてもあったかくて
心のおくからあんしんできて、なぜだかきゅうになみだがでてしまいました。
けいじえいくんはまだ5さい。そういうおとしごろなんです。



かえりはおとうさんといっしょです。
「おとうさん、もうおべんとうわすれちゃだめだよ。
ぼくはもうぜったいとどけてあげないからさ。」
けいじえいくんはウソをついた。

おしまい。